

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 8月 11日

【評価実施概要】

事業所番号	0171300163		
法人名	有限会社 北のゆめ		
事業所名	グループホーム 北のゆめ		
所在地	北広島市稲穂町東10丁目4-17 電話 011-376-7700		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年8月6日	評価確定日	平成20年8月18日

【情報提供票より】 (平成20年6月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成 16年6月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	17 人, 非常勤 0 人, 常勤換算17人

(2) 建物概要

建物構造	木造防火サイディング 造り		
	2階建ての 1.2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,000~52,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費: 20,000 円 暖房費(10-4月):7,000 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1月当たり 35,000円 円			

(4) 利用者の概要(6月30日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	0 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	4 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	75 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	きたひろ内科呼吸器科・北進歯科クリニック・介護保険施設恵みのケアサポート
---------	--------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム 北のゆめ」は田園風景が広がる自然環境にあり、北広島駅からタクシーで5分ほどの住宅街に位置している。運営者は「自分の家族を入れたいホームに」との理想を持ち、長年の医療、介護現場の経験と数ヶ所のグループホームを立ち上げた体験から、自らの開設ホームでは、利用者の一人ひとりの人生を大事にするため、職員が自分の人生を常に考える習慣を勧めてきた。利用者は習字や読書、ピアノ演奏など個人の趣味を生かし、多彩なボランティアによる催しを楽しむなど、利用者のそれぞれのペースで過ごしている。職員には有資格者が多く、ケアに対する高い意識を持ち毎日のカンファレンスで利用者の状態に応じたケアに取り組んでいる。
--

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 利用者の視点から作られた理念であるが、その中に地域住民との関係性が入っていない。地域密着型サービスの意義を職員間でさらに深めたいとのことなので、そのことを通して表現を加えることに期待したい。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は全員で取り組み、毎日ユニットごとに項目を話し合った。その日の記録したものを管理者がまとめ、最終的に運営者が確認した。利用者の中には心身の変化が出てきたケースもあるので、その状態に合わせた取り組み内容を検討する機会になっている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月ごとに開催している。会議では家族や近隣を含めた避難訓練についても話し合っているため、その実現に期待したい。また、市の担当窓口には管理者が「北のゆめ便り」を届け、ボランティアの要請をしている。運営者は同業者間で交流する必要性を思い、中心になって立ち上げた「グループホーム連絡会」には市の担当者も参加し連携をとっている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ホームページを作成し、職員の紹介や「北のゆめ便り」を載せ、本人・家族の同意書を得て、ホームでの暮らしぶり報告している。その便りの個人欄に担当職員がメッセージを添えて渡している。家族の来訪時には利用者の状態を詳細に伝え、金銭管理についても適切に処理している。家族との信頼関係を大切にし、来訪時には気軽に言えるような雰囲気をつくり意見があれば些細なことでも毎日のカンファレンスで取り上げ対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、利用者は地域の盆踊りや敬老会などに参加したり、多彩なボランティア訪問による催しなどを楽しんでいる。散歩のついでにゴミを拾ったり、近所の人と挨拶を交わしたり、野菜や花を頂くなど身近な所での交流もある。利用者の中には状態が重くなり地域行事への外出が困難なこともあり、ホームの行事に近隣の人を招くなどの交流機会を考えている。また、住民の心配ごとを受ける看板を掲げ面談や電話で相談に乗っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成16年の開設時に、利用者の観点から文言を練って事業所独自の理念を作り上げている。その中に、地域住民との関係性が入っていないので、職員間で話し合いを進めているところである。	○	住民との交流は行われており、地域密着型サービスの意義を職員間でさらに深めたいとのことなので、そのことを通して表現を加えることに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は「安全、楽しく、プライド、ゆっくり」との短い言葉にして要所に掲示してある。職員はこの理念が利用者の生活に欠かせない重要な点として、その実現に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は町内会の総会、清掃、花いっぱい活動に参加している。利用者は地域の盆踊りや敬老会で交流し、また、多彩なボランティア訪問による催しなどで楽しんでいる。散歩のついでにゴミを拾ったり、近所から野菜や花を頂くなど身近な所での交流もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全員で取り組み、毎日ユニットごとに項目の取り組みについて話し合った。その日の記録したものを管理者がまとめ、最終的に運営者が確認した。利用者の中には徐々に心身の変化もあり、今年の取り組みについて考える機会になっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとの開催で、ホームの状況を説明し、外部評価の結果も報告している。会議では介護制度の説明や地域に住む独居高齢者の諸事情など、情報交換の場になっている。出席者の意見が少ないので、そこでの意見を吸い上げる工夫を考えている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月、管理者は市の窓口を訪問し「北のゆめ便り」を届け、ホームの報告やボランティアの要請をしている。また、電話でも相談している。運営者が自主的に立ち上げた「グループホーム連絡会」には、市の担当者を招き、ゴミの有料化について相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホームページを作成し、職員の紹介や「北のゆめ便り」を載せ、本人・家族の同意書を得て、暮らしぶりを報告している。その便りの個人欄に、担当職員がメッセージを添えて渡している。家族の来訪時には利用者の状態を詳細に伝え、金銭管理についても適切に処理している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との信頼関係を大切にし、来訪時には気軽に言えるような雰囲気づくりをしている。些細な意見でも毎日のカンファレンスで取り上げ対応している。家族が運営している「家族会」は行事が中心になっており、意見や要望などを聞くのはこれからである。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が重度化した場合には、安全面に配慮し希望も入れながら1階のユニットに異動している。職員も各ユニットを経験し、管理者と話し合い勤務場所を決めている。利用者とは顔馴染みなので、ダメージは特に見られないが職員の異動を少数にするなど利用者の状態に合わせて配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員の資格取得に向けて支援をしており、有資格者が多い。職員は3段階のレベルに向けて個人目標を作り、自主的に外部研修に参加し、研修内容も必要に応じて報告している。内部研修では、新規採用時、また、テーマごとに外部から講師を招くなど、学ぶ機会を多く作っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「グループホーム連絡会」を運営者が中心になって立ち上げ、その研修会に職員も参加している。昨年は事務局担当になり、当ホーム見学で音楽療法を企画し、他の事業所への刺激になった。今年の交流会では運営者、管理者、職員ごとに分けて気軽に話せる場を予定している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学を勧めている。入居後は顔馴染みになってもらうため、職員は仏壇の前で手を合わせたり、本人の関心ごとに沿いながらコミュニケーションを密にしている。利用者が入居者の輪の中に居場所ができるように配慮もしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意な面を聞き出し、料理の味見やおはぎ、節分の太巻などの作り方を教えて貰い一緒に行っている。日常生活の場面では本人の気持ちや感情に沿って共に過ごす関係を大切にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居後、共に過ごす中で、利用者の何気ない言葉や素振りを記録に残し、それらをカンファレンスで話し合い介護計画に載せることもある。また、利用者同士の会話も聞き逃さないようにして、本音の部分も聞き取るように努め検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	可能な限り本人の意向や家族の希望、意見を聞き、計画作成担当者が原案を作成し、職員全員でカンファレンスを行い、利用者本位の介護計画を作成している。介護計画は、家族や状況に応じて利用者にも説明し、同意を得て実行に移している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月を基本としているが、病気などの体調変化や、退院時など利用者の状態に応じてカンファレンスを行い、随時、利用者の現状に即した介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間医療連携体制を整えている。看護師が在職しているため、必要に応じて点滴の対応も可能である。協力医療機関や専門医、美容室の送迎など状況に応じて柔軟に支援している。地域の介護相談などにも乗っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望で、かかりつけ医の診療を継続出来るように支援している。協力医の訪問診療を月2回受診し、診察結果に応じて、利用者のかかりつけ医に連絡して適切な医療が受けられるように連携を整えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りマニュアルを整備して、入居時に説明を行い、重度化や看取りに関しての同意書を作成している。看取りや重度化に関しては家族と繰り返し話し合いを行い、随時確認し、職員も対応を共有している。家族に24時間365日対応可能な医師の紹介も行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念にプライドの尊重を掲げ、利用者を理解し、信頼関係の中で、一人ひとりに合った対応をしている。プライバシーに関してカンファレンスの中でも話し合い、言葉かけや接し方に配慮している。個人情報は、ロッカーなどの目に付かないところに保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、利用者の状況に応じて一人ひとりのペースに合わせてゆとりを持った対応が出来るようにしている。美容室などの送迎を希望した時は、勤務調整をして希望に沿うように柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況に応じて、食事の準備や盛りつけ、後片づけなど職員と一緒にしている。利用者の希望などにより献立を柔軟に変更して、楽しく食事が出来るように配慮している。職員は利用者と同じテーブルで楽しく食事が出来るように雰囲気作りをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は、月火、木金を基本に週2回入浴出来るように考えて対応しているが、利用者の希望や状況によっては他の日の入浴も可能になっている。無理なく入浴できるように、一人ひとりの気持ちやタイミングに配慮し、楽しんで入浴出来るように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や後片づけ、縫い物など、利用者の出来る事やしたい事を把握し、役割を持って楽しんで生活出来るように支援している。習字や読書、ピアノ演奏など生活歴を生かした楽しみ事が出来るような支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は、利用者の状況で全員は難しくなってきたが、可能な利用者は、近くを歩行や車いすで毎日散歩したり、戸外で日向ぼっこをして外気に触れて気分転換が出来るように支援している。文化ホールでの催事見学や買い物などにも随時出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関やユニット玄関の鍵を閉める事なく、ユニット間の交流や外出が自由に出来るようになっている。利用者が外出した時は、職員と一緒に出かけて、利用者の安全に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回消防署の協力のもと、昼、夜それぞれを想定して避難訓練を行っている。運営推進会議で地域の人々の協力の必要性について話をし、前回は、町内会の前会長にも参加して貰い避難訓練を実施している。	○	次回の避難訓練までに、運営推進会議で議題に取り上げて、地域や家族の連絡網を作成したい意向なので、その取り組みに期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の健康状態に応じて、水分、食事の摂取量を記録して個別に対応している。利用者の希望も取り入れながら、職員が交代で献立を作成して食事委員会において見直しを行い、一人ひとりに合った支援が出来るように努めている。カロリー計算も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は、配慮された明るい光が入り、落ち着いてゆったり過ごせる空間になっている。前回の外部評価を踏まえ、居間には、季節の花と共に、七夕飾りや短冊が飾られ、季節感を感じる事が出来るよう工夫されている。居間に面しての対面式キッチンには、食事の準備する姿を見ながら、料理の匂いを感じ、職員と会話が楽しめようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の使い慣れた物や好みの家具、仏壇、写真などが持ち込まれ、落ち着いて居心地良く過ごせるようになっている。床に畳を敷いたり、好みの暖簾をかけたり、それぞれの利用者らしい個性のある居室になるように配慮されている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。